

国の政治の仕組み

本校の育成する資質・能力

コミュニケーション力

主体性

- 1 日時 令和3年11月12日(金) 14:00～14:50
- 2 学年・学級 3年3組(男子20名 女子17名 計37名)
- 3 場所 3年3組教室
- 4 単元について

(1) 単元観(題材観)

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年告示)社会「公民的分野」2内容C私たちと政治(2)「民主政治と政治参加」に基づき設定した単元である。

本単元では、次のような資質・能力を育成することと示されている。

(2) 民主政治と政治参加

対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ウ) 国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解すること。

イ 地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することに向けて、次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。

この単元では、「個人の尊重と法の支配、民主主義など、法に基づく民主政治の基本となる考え方に関する理解を基に、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について考察、構想し、表現することができる適切な問い、例えば、議会制民主主義が取り入れられているのはなぜか(なぜ議会を通して政治が行われるのか)、民主政治をよりよく運営していくためにはどのようなことが必要か、自治とは何か、といった問いを設け、それらの課題を追究したり解決したりする活動を通して、地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することを主なねらいとしている。

内容の取扱いについて、「『法に基づく公正な裁判の保障』に関連させて、裁判員制度についても触れること。」と示されている。将来、生徒は裁判員裁判の裁判員として選ばれる可能性があり、抽象的な理解にならないように裁判官、検察官、弁護士などの具体的な働きを通して理解できるようにするなどの工夫が大切である。このことから、本単元で実際に生徒に役割分担を行なって模擬裁判を行うことで、裁判官、検察官、弁護士の具体的な働きを理解させる。また、グループで協力して、裁判に関わる資料を的確に読み取って必要な情報を取り出したり、争点を整理したりして、法に基づいた論理的な思考力や、多面的・多角的な物の見方、自分の意見について根拠を挙げて表現することや主権者として、裁判員制度への参加を通して主体的に社会に関わろうとする態度を育成したい。

また、小学校社会科第6学年では、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることや、裁判員制度の役割を学習しているが、国民としての政治への関わり方について多角的に考えて、自分の考えをまとめる学習になっている。中学校では他者の意見も取り入れるなど多面的・多角的に考察することを通して、理解を深めていくような学習が展開されるようになる。

(2) 生徒観（調査結果等から見る課題）

本学級の生徒は、雰囲気は全体的に明るく、授業での反応もよく熱心に取り組む姿勢がある一方で、発表は一部の生徒に限られることがあり、社会科に興味をもてない生徒もいる。自分の意見を他者に伝えるのを途中で諦めたり、人前で話すのを嫌がる生徒も多い。また、発言力ある生徒が直感的に発言することが多い。

本学年の生徒は、アンケートで次のように回答している。

質問	肯定的	否定的
①自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。	88.4%	11.6%
②難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	63.1%	36.9%
③自分と違う意見について考えるのは楽しい。	69.0%	31.0%
④授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していたと思う。	47.6%	50.5%
⑤授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていた。	51.5%	48.6%
⑥友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。	92.2%	7.7%

アンケート結果から、自分で意思決定を行なったことに責任をもって取り組んだり、仲間との話し合い活動で相手の意見を最後まで聞くなどの学習規律は整っている。一方で、自分の考えを相手意識をもってわかりやすく表現することや、既習の知識及び技能を活用して考えをまとめるなどの表現する力に課題がある。また、難しい課題や他者との意見の違いに不安を感じる生徒が多く、話し合い活動でも自分の考えを表現することに躊躇する生徒もいる。

(3) 指導観（指導改善のポイント）

このような事態をふまえ、次のような指導を行う。

- ① 単元を通して、政治や司法制度への関心を高めるために、最近の新聞やニュースを取り上げ、自分の身近なことに興味をもたせ、将来自分ならどうするかについて考えさせる。
- ② 話し合い活動では、最近の新聞やニュースの記事について学習した知識及び技能を根拠として自分の考えや意見をまとめ、ペアでの簡単な意見交流を行わせる。
- ③ グループでの話し合い活動では、生徒指導の3機能を活用して特に相手の考えや意見を受け入れる姿勢を大切にする。どんな考えや意見でも受け入れてもらえる雰囲気づくりを行うことで共感的な人間関係を作っていく。

単元の目標

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。 ○国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。	○対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	○民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。

単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
本校が定めた 資質・能力	コミュニケーション力		主体性
評価基準	<p>知 我が国の民主政治の仕組みを理解している。</p> <p>知 国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。</p>	<p>思 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主政治の推進などについて考えている。</p> <p>思 対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p>	<p>態 現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。</p>

指導と評価の計画

次	学習内容	評 価	
		観 点	評価規準（評価方法）
1 ┆ 3	<p>○立法権をもつ国会のしくみと仕事 (国会の地位と仕組み、法律や予算ができるまで、行政を監視する国会)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> 課題の設定 情報の収集 整理・分析 </div>	<p>知 衆議院と参議院の違いを理解している。 国会の仕事について理解している。</p> <p>思 「衆議院の優越」が定められている理由について、効率と公正に着目して考察し、適切に表現している。(発表・ノート)</p>	
3 ┆ 5	<p>○行政権を持つ内閣の仕組みと仕事 (行政の仕組みと内閣、行政の役割と行政改革)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> 情報の収集 整理・分析 </div>	<p>知 内閣の仕事について理解している。</p> <p>思 日本の内閣と国会との関係について考察し、表現している。(ノート)</p>	
6 ┆ 8	<p>○司法権を持つ裁判所のしくみと仕事 (裁判所の仕組みと働き、裁判の種類と人権、裁判員制度と司法制度改革)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> 情報の収集 整理・分析 </div>	<p>知 裁判所の種類と裁判について理解している。 裁判員が、裁判官とともに担当する役割を、理解している(ワークシート)</p> <p>思 司法権の独立の原則が必要な理由について、個人の尊重に着目して考察し、表現している。</p>	
9 本 時	<p>○模擬裁判</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> まとめ・創造・表現 </div>	<p>知 法に基づく公正な裁判について理解している。</p> <p>態 仲間と協力して意見をまとめ、根拠をもとに議論を行っている。 (行動観察)</p>	
1 0	<p>○三権の抑制と均衡</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> まとめ・創造・表現 整理・分析 振り返り </div>	<p>知 三権が互いに抑制し合っていることを理解している。</p> <p>思 三権分立が採られている理由について、人権の観点から考察している。(ノート)</p> <p>態 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。(足跡シート)</p>	

本時の学習

(1) 本時の目標

将来の主権者として、模擬裁判を通して主体的に社会に関わろうとすることができる。

(2) 観点別評価規準

C	B	A
自分なりに根拠をもち考察できている。	他者の意見も聞きいれ、自分の考えをしっかりとつことができている。	積極的に討論に参加し、裁判員制度を通して、国民と司法のかかわり方について考え、関心を高めている。

(3) 準備物 ワークシート テレビ ホワイトボード

(4) 学習の展開

	学習活動	◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて	評価規準 (評価方法)
導入 【発見】	① 前時の復習をする。 ② 課題意識をもつ。 ③ めあての提示	◇裁判員制度について詳しく振り返る。法曹三者の役割について確認する。 ◇近い将来、自分も裁判員に選ばれるかもしれないことをイメージさせる。	
本時のめあて 裁判員になったつもりで、評議をして判決を提案しよう。			
展開① 【思考】	③ 模擬裁判の進め方について説明し、裁判員裁判の流れを確認する。 ④ 「〇市のコンビニ強盗致傷事件」を知る。 ⑤ 「検察側の主張」「弁護側の主張」を把握し、争点を確認する。	◆裁判員裁判の法廷写真を示し、法廷のイメージをつかませる。 ◇ワークシートを配布する。 ◆動画などを用い、興味をもたせる。 ◆しっかり理解させる。	
展開② 【深化】	⑥ 班で被告人Xの有罪・無罪について裁判員になったつもりで話しあわせる。(評議) 【自己決定】 【共感的人間関係】 【予想される反応】 ・店員Aがサングラスが外れたとき犯人を見ているので証拠になる。	◇どの証拠の重要度が高いかを考えさせながら、評議させる。 ◇推定無罪の原則や黙秘権に留意するように助言する。	

	<p>・一瞬見ているだけでは、有罪とはいきれない。 など</p> <p>⑦ 被告Xの有罪・無罪について、判断した理由も含めて、グループごとに発表する。</p> <p>【予想される反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・証人○の証言により、有罪である。 ・証人○の証言は信用できず、無罪である。 <p>⑧ 各グループに共通している視点、共通していない視点を整理させ、意見交換させる。</p> <p>【考えられる視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の記憶でみているだけでは証拠とは言えないのではないか。 ・いろんなことが積み重なれば証拠になるのではないか。 など 	<p>◇このケースで、自分が本当にしていない被告人であったらと投げかける。</p> <p>◇ホワイトボードに班でグループ判決と理由を書かせる。</p> <p>◇完成させた判決を黒板に掲示する。</p> <p>◇様々な考え方があることに気づかせる。</p>	
<p>終末【まとめ・振り返り】</p>	<p>⑨ 評議の感想や、裁判員制度の意義や課題についてまとめさせ、発表する。</p> <p>【予想される反応】</p> <p>事実を判断することが難しかった。様々な角度から考えることの大切さを知った。</p> <div data-bbox="220 1547 1171 1758" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○生徒の振り返り例</p> <p>今日は、裁判員裁判としての模擬裁判を通して、人を公正に裁く難しさが分かった。また他の人の意見を聞くと、改めて色々な見方・考え方があると考えることができた。もし裁判員に将来選ばれたら、自分の意見をしっかりとって判断できるようになりたい。</p> </div>	<p>◇ワークシートに記入させる。</p> <p>◇裁判員裁判が自分に関係あることととらえ、自分とのかかわりについてという視点も記述させる。</p> <p>◇有罪・無罪のどちらの結論が絶対ということはない。結論を導くに至った論理的な根拠が大切である。</p>	<p>裁判員裁判などを通して、国民と司法のかかわり方について考え、関心を高めている。 (ワークシート)</p>

本質的な問い: 将来の主権者として、どのように社会に関わるべきか。

単元を貫く問い: 平和な社会を築くために、私たちはどのように政治に関わるべきなのか。